

作成日 平成 12 年 10 月 23 日
改訂日 令和 4 年 5 月 16 日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	ライトクリスタル PA
製品整理番号	BA045
供給者の会社名称	株式会社ウォーターエージェンシー
住 所	162-0813 東京都新宿区東五軒町 3 番 25 号
担当部門	ケミカルサービス事業本部
TEL	03-3267-4073
FAX	03-3267-4106
緊急連絡電話番号	同 上
推奨用途および使用上の制限	工業用消臭剤

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

物理化学的危険性	区分に該当しない	
健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	区分に該当しない
	急性毒性 (経皮)	分類できない
	急性毒性 (吸入:気体)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入:蒸気)	分類できない
	急性毒性 (吸入:粉塵)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入:ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない
	誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分3
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分3
	オゾン層への有害性	分類できない

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル	なし
注意喚起語	なし
危険有害性情報	水生生物に有害 長期継続的影響により水生生物に有害

注意書き

<安全対策>

- ・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- ・取扱い後は手をよく洗うこと。
- ・環境への放出を避けること。

<応急措置>

- ・吸入した場合:気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- ・飲み込んだ場合:口をすすぐこと。気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- ・皮膚に付着した場合:汚染された衣類を脱ぐこと。多量の水と石鹸で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診察、手当てを受けること。

- ・眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合、医師の診察、手当てを受けること。
- ・日光から遮断し、換気の良い場所で保管すること。
- ・内容物及び容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託して廃棄すること。

<保管>

<廃棄>

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物		
化学名又は一般名	①界面活性剤	②着香剤	③葉緑素
化学物質を特定できる一般的な番号	①CAS No. 有り	② —	③ —
化学式	①非開示	②非開示	③非開示
成分及び濃度又は濃度範囲	①界面活性剤 非開示	②着香剤 非開示	③葉緑素 非開示
官報公示整理番号 (化審法)	①(7)-97	② —	③ —
(安衛法)	①公表化学物質	② —	③ —

4. 応急措置

吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。必要に応じて医師の診断を受けること。
皮膚に付着した場合	速やかに多量の水と石鹸でよく洗い流すこと。汚染された衣類はすべて脱ぐこと。
眼に入った場合	直ちに清浄な水で 15 分以上洗眼した後、速やかに眼科医の診断を受けること。コンタクトレンズを使用している場合、固着していない限り取り除いて洗浄すること。
飲み込んだ場合	清浄な水でよく口の中を洗浄し、水または牛乳を飲ませ、速やかに医師の診断を受けること。無理に吐かせないこと。被災者に意識がない場合、口から何も与えないこと。
急性症状及び遅発性症状並びに最も重要な兆候及び症状	知見なし。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	特になし。
医師に対する特別な注意事項	特になし。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素、水。
使ってはならない消火剤	知見なし。
火災時の特有の危険有害性	知見なし。
特有の消火方法	関係者以外は、安全な場所に退去させる。風上から消火作業を行う。速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は、容器および周辺に散水して冷却し、容器の破損を防ぐ。火源への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。周囲の設備等に散水して冷却する。消火のための放水等により、製品もしくは化学物質が、河川、土壌、下水に流出しないように適切な措置を行う。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火作業の際は、適切な保護具(空気呼吸器、保護眼鏡、保護手袋等)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触を避ける。多量の場合、関係者以外は安全な場所に退避させる。必要に応じた換気を実施する。
環境に対する注意事項	環境への悪影響が懸念されるため、製品が河川等に排出されないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	漏出源を遮断し、漏れを止める。 少量の場合、乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に回収する。 多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。回収した漏出物は、廃棄処理する。 漏出した場所は、多量の水を用いて洗い流す。
二次災害の防止策	関係者以外は近づけない。密閉された場所の場合は、入る前に換気する。 床が濡れた状態で放置すると、滑りやすくスリップ事故の原因となるため注意する。 漏出物の上をむやみに歩かない。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

局所排気・全体換気

安全取扱注意事項

接触回避

衛生対策

保管

安全な保管条件

安全な容器包装材料

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

必要に応じて全体換気、局所排気を行う。

用途以外には使用しないこと。

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

火気、その他火源となる恐れのあるものに近づけたり、加熱しないこと。

キャップを開ける時、液が飛び出す恐れがあるので注意すること。

使用後は必ずキャップを締めること。取扱い後はよく手を洗うこと。

『10. 安定性及び反応性』を参照。

取扱い後は手をよく洗うこと。

製品は密封して、直射日光を避けて冷暗所に保管する。

火気、熱源から遠ざけて保管する。

関係者以外の手の届く所、いたずらされる恐れのある所には置かない。

密封できるものを使用する。

推奨材料: ポリエチレン容器

不適切材料: 金属容器

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

許容濃度

設備対策

保護具

設定されていない。

日本産業衛生学会(2014年度版): 設定されていない。

ACGIH(2013年度版): 設定されていない。

換気を良くし、取り扱う場所の近くに洗眼および身体洗浄のための設備を設置する。

手の保護具: 不浸透性(耐薬品、耐油、耐溶剤)保護手袋を着用する。

眼、顔面の保護具: 側板付き保護眼鏡を着用する。

皮膚及び身体の保護具: 通常の長袖作業衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

色

臭い

融点/凝固点

沸点又は初留点及び沸点範囲

可燃性

爆発下限界及び爆発上限界/

可燃限界

引火点

自然発火点

分解温度

pH

動粘性率

溶解度

n-オクタノール/水分配係数(log 値)

蒸気圧

密度及び/又は相対密度

相対ガス密度

粒子特性

液体

緑色透明

フレッシュウッディ調

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

6.0~8.0 (25℃)

データなし

水と任意の割合で溶解する。

データなし

データなし

1.00~1.01 (25/4℃)

データなし

データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

化学的安定性

危険有害反応可能性

避けるべき条件

混触危険物質

危険有害な分解生成物

知見なし。

通常の取扱いでは安定である。

知見なし。

日光、熱。

知見なし。

知見なし。

11. 有害性情報

急性毒性

経口:区分に該当しない。
 経皮:データ不足のため、分類できない。
 吸入(気体):区分に該当しない。
 吸入(蒸気):データ不足のため、分類できない。
 吸入(粉塵):区分に該当しない。
 吸入(ミスト):データ不足のため、分類できない。

皮膚腐食性/刺激性

データ不足のため、分類できない。

眼に対する重篤な損傷性

データ不足のため、分類できない。

/眼刺激性

呼吸器感受性又は皮膚感受性

データ不足のため、分類できない。

生殖細胞変異原性

データ不足のため、分類できない。

発がん性

データ不足のため、分類できない。

生殖毒性

データ不足のため、分類できない。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

データ不足のため、分類できない。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

データ不足のため、分類できない。

誤えん有害性

データ不足のため、分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)

成分である界面活性剤が区分2であるため、分類 JIS で区分3とした。

水生環境有害性 長期(慢性)

成分である界面活性剤が区分2であるため、分類 JIS で区分3とした。

残留性・分解性

データなし。

生体蓄積性

データなし。

土壌中の移動性

データなし。

オゾン層への有害性

データなし。

13. 廃棄上の注意

化学品(残余廃棄物)、当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。
 容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報

非該当

航空規制情報

非該当

国内規制

陸上規制情報

非該当

海上規制情報

非該当

航空規制情報

非該当

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

直射日光を避ける。粗暴に取り扱わない。
 荷崩れ、落下などに注意する。容器が破損しないように注意する。
 容器を投げない、落さないこと。容器の上に乗らないこと。
 輸送作業は取扱い及び保管上の注意事項に留意して行う。

緊急時対応措置指針

なし

15. 適用法令

労働安全衛生法

非該当

毒物及び劇物取締法

非該当

化学物質排出把握管理促進法

非該当

化審法

非該当

消防法

非該当

16. その他の情報

・記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査した訳ではないため、情報洩れがあるかも知れません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じることがあります。

重要な決定等にご利用される場合は、試験によって確かめられる事をお薦めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、推奨用途上の通常的な取扱いを対象としたものなので、推奨用途から外れる特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。

・問合せ先

担当部門 ケミカルサービス事業本部

電話番号 03-3267-4073 FAX 番号 03-3267-4106